

わが

水清く人情のあついで あずましの里、くろいし

はじめに

黒石市は、青森県のほぼ中央に位置し、総面積の8割を占める山岳地帯が八甲田連峰に連なり、平坦部が津軽平野の一部をなすなど、豊かな自然に恵まれ、味の良い「黒石米」と「黒石りんご」の産地として

知られています。また、十和田湖北西の櫛ヶ峰に源を発し、南部を東西に貫流する浅瀬石川の流域には温泉が各所に湧出し、その周辺は「黒石温泉郷県立自然公園」に指定され、公園内にはランプの宿として全国的に有名な「青荷温泉」も含まれています。



藩政時代の面影が残される、木造アーケード通路「こみせ」

交通体系面では、十和田湖の西玄関口に当たり、東北自動車道黒石ICや国道102号、津軽と南部を結ぶ国道394号を擁し、至近距離に青森空港や東北新幹線新青森駅があるなど、交通の要衝としての役割も増大しています。

重要伝統的建造物群を 活用したまちづくり

本市は、明暦2年(1656年)に津軽信英公が津軽藩から分知されて以来、城下町として栄え、明治以後も南津軽郡役所の所在地となっていました。そのため、今も町並みや町名などに当時の名残をとどめています。

「日本の道100選」にも選ばれた中町の「こみせ」には、雪国独特

の雨や雪を防ぐ木造のアーケードの通路がまともに残っており、藩政時代の面影が残されています。また、国重要文化財の「高橋家住宅」や市指定文化財の造り酒屋「鳴海家」をはじめ、旧商家造りの住宅が多く軒を連ねており、重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。これらは文化財としての保全は当然のことながら、商店街活性化の起爆剤として、また、観光資源としての利活用を図るため、住民の皆さんと協力しながら町並みの整備を進めています。

「こみせ」を活用したイベントの「クラシックカークラブ青森ミーティングinこみせ」は、毎年7月に開催され、全国から200台以上のクラシックカーが集結し、古い町並みと往年の名車や旧車が融合する雰囲気となり、県内外からの大勢のファンでにぎわう一大イベントに成長しました。また、9月に開催される「こみせまつり」

は、津軽三味線演奏や津軽民謡などのイベントが盛りだくさんです。「こみせ」のほかにも「じよんから節発祥の地」である黒石から民謡文化を発信しようと「本場津軽民謡全国大会」が本年初めて開催され、大勢の民謡ファンでにぎわいました。

やきそばのまち黒石

「黒石やきそば」は、太くて平らかなコシのある独特な麺が特徴で、昭和30年ごろには食堂のみならず、駄菓子屋などでも売られた子どものおやつでもありました。現在は市内約70軒以上の店でやきそばが売られ、市民にとってなくてはならないソウルフードです。

また、近年のB級グルメブームもあり、黒石やきそばは全国的にも注目を集め、「やきそばのまち黒石」を掲げる本市では平成23年10月、やきそばのジャンルで「愛Bリーグ」(一般社団法人B級ご当地グルメでまもこし団体連絡協議会)



もみじの名勝として名高い「中野もみじ山」

に加盟する11団体を全国から招致し、「全国やきそばサミットin黒石」を開催しました。2日間での集客は約6万3000人と大盛況に終わり、大きな成果が得られました。

中野もみじ山

藩政時代、京都から100余種の楓を取り寄せ、中野神社に奉納したことが起源とされる中野もみじ山は、もみじの名勝として名声

を高め、小嵐山と称されています。本市では、平成23年10月から通常のライトアップに加え、全色対応のムービングライトで光のショーを演出するなど、魅力度向上による誘客拡大を目指しています。

おわりに

本市は恵まれた自然環境と先人

からの豊かな歴史文化を継承して現在までまちづくりを進めてまいりました。今後は、これらの資産を次世代を担う子どもたちに引き継ぎ、「あずましの里くろいし」の実現を目指してまいります。

※「あずまし」は、落ち着く、居心地が良いなどを表す方言です。

プロフィール

- ◆ 面積 216.96km²
- ◆ 人口 3万6375人
- ◆ 世帯数 1万3457世帯

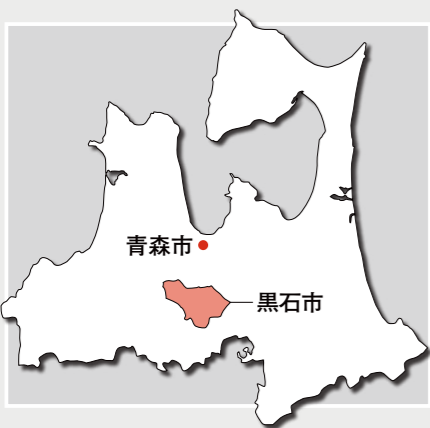
〔将来都市像〕 なつかしい、おいしい、あたらしい 黒石

〔まちの特徴〕 八甲田連峰に連なる東部山岳地帯と津軽平野の一部からなり、味の良い「黒石米」と「黒石りんご」の産地

〔特産品〕 津軽系温泉こけし、りんごジュース、地酒(菊乃井、玉垂、黒石やきそば、黒石つゆやきそば)



黒石市長 鳴海広道



〔観光〕 黒石温泉郷、黒森山浄仙寺、津軽伝承工芸館、津軽こけし館、中町こみせ、法眼寺、りんご史料館、虹の湖公園、中野もみじ山

〔イベント〕 黒石さくらまつり、黒石ねぶた祭り、黒石よさこえ、黒石りんごまつり、黒石旧正マッコ市、クラシックカークラブ青森ミーティング

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

子育て環境日本一を目指します

矢板市の紹介

矢板市は、美しい高(たか)原山(はらやま)に抱かれて、豊かな自然の恵みを日々の暮らしに感じることのできる、素晴らしいまちです。

将来にわたり、この豊かな自然を大切にしながら、矢板の良さを生かして、未来に夢と希望が持てる矢板市を築いていきます。

本市は、栃木県の北東部、東京圏から北に約100km、県都宇都宮市から約30kmのところに位置しています。

主要な交通施設として、東北自動車道と国道4号が、さらにJR東北新幹線と東北本線(通称宇都宮線)が並行して市の南北を縦貫しており、東京圏と東北地方を結んでいます。また、市南部に矢板インターチェンジがあり、矢板駅と片

岡駅の2駅があるなど交通の利便性に恵まれたところです。

北部は日光国立公園の一部である山林が連なり、中心部から南部一帯は肥沃な関東平野の一部として、市街地や農地などが広がっています。1年を通じて寒暖の差が大きく、四季折々の豊かな自然を感じることができます。大規模な風水害など自然災害の発生件数も少ないところです。

未来に夢と希望が 持てるまちを目指して

本市に限らず、わが国は本格的な人口減少時代を迎えています。少子・高齢化の進行をはじめ、地球環境への負荷軽減や自然災害への対策強化など、まちづくりに対する新たな課題への対応が求められている中で、市勢の持続的発展

を図るための指針として、平成23年3月に「第2次21世紀矢板市総合計画」を策定しました。

計画では、本市の10年後の将来像を「人いきいき 水・風・緑」きらきら「暮らし」のびのび つつじの郷やいた」と決めました。本市の良いところを見つめ直し、それらを生かして未来に夢と希望が持てるまちを目指し、市民の皆さまとともにまちづくりを進めていきます。

すべての市民が いきいきと輝くまちづくり

平成23年11月に「まちづくり基本条例」を施行しました。策定に当たっては、市民主体のまちづくりを進めるため、市民の手づくりで立案することとしました。市民が条例の策定にかかわることにより、条例が



市民記者による手づくり新聞「市民力かわら版」

特に、市民記者がつくる「市民力かわら版」では、2カ月に一度の発行に向け、取材から原稿作成まですべてを10名

の記者が手掛けています。県内唯一、市民感覚の手づくり新聞です。

市民と行政が協働して未来に希望の持てるまちづくりを進めていくための根源「市民力」をキヤッチフレーズに、すべての市民が「いきいき」と輝くまちづくりを進めていきます。

子育て環境日本一を目指す

今や、日本全体が人口減少時代に突入しています。本市においても平成10年をピークに緩やかな減少傾向をたどり、一方で全人口に占める高齢者の割合が年々増加し、まさに少子高齢社会となっています。

少子化対策は、実は最大かつ抜本的な高齢化対策でもあると考えます。これからの高齢世代をしつかりと支えていけるだけの若者世代を確保すること、これを



「おためし田舎暮らし」の一環、おためしの家での「そば打ち体験」

念頭に置かな

ければ、まちの活性化などは論外ですし、本市の高齢者福祉は遠からず限界を迎えてしまいます。

高齢者が安心して暮らせるために、そして矢板市の今後の持続的な発展のために、若者や子育て世代を中心とした人口誘導を進めていかなければなりません。

本市では、人口誘導策の一つとして、平成23年10月から「暮らしのびのび定住促進補助事業」を実施しています。市内に住居を求める方への補助のほか、子どもがいる場合には加算補助をするなどの特徴があります。

また、「棚田オーナー」や「そばオーナー」「おためし田舎暮らし」「親子で過(こ)す!夏のまるごと体験ツアーin矢板」など、本市ならではの自然環境の中で「都会田舎」と称し、都市との交流を通じた人口誘導策も展開しています。

一方で、18歳までの子どもの医療費の助成を県内で初めて実施したほか、第2子以降の誕生の家庭へ「みらいっ子誕生祝金」の支給、さまざまな子育て支援に取り組んでいます。

子育て支援は、出産前後・乳幼

児期・学齢期など、年齢ごとに異なるニーズがあり、それぞれの時期における経済的負担の軽減も求められています。保健福祉・医療・教育をはじめ、生活の利便性や働く場所の確保なども必要です。

今後、子育て環境の充実に向けて特色ある施策を展開し、情報発信することで、矢板で子どもを産み育てようと思っただけのような「子育て環境日本一」を目指したまちづくりを進めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 170.66km²
- ◆ 人口 3万5007人
- ◆ 世帯数 1万3004世帯

〔将来都市像〕「人いきいき 水・風・緑」きらきら「暮らし」のびのび つつじの郷やいた

〔まちの特徴〕豊かな自然環境と東京圏からのアクセスが良い、栃木県北部の拠点都市

〔特産品〕矢板たかはら米、りんご、



矢板市長 遠藤 忠



あつぷるカレー、日本酒

〔観光〕りんご団地、八方ヶ原、道の駅やいた、山の駅たかはら、城の湯温泉、長峰公園

〔イベント〕矢板市つつじまつり、矢板市ふるさとまつり、光と音のあんどんまつり、たかはらやまトライアスロン、やいた花火大会、ともなりまつり、矢板たかはらマラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

元気で魅力あふれる 鈴鹿づくりを目指して

地域ブランド力を生かして

鈴鹿市は、平成16年に全国初の「モータースポーツ都市宣言」を行い、乗り物による観光振興や地域活性化施策に積極的に取り組んできました。近年は、「スポーツのまち」として思い浮かぶ自治体ランキング(「地域ブランド調査」)で5年連続(調査開始の平成19年〜平成23



国際レーシングコースを駆け抜ける「鈴鹿シティマラソン」

年)1位を獲得しています。その大きな理由は、自動車レースの最高峰と称される「F1日本グランプリ」やオートバイの世界耐久選手権「鈴鹿8時間耐久ロードレース」が開催される鈴鹿サーキットを有しており、モータースポーツが盛んなまちと全国的にも認知されているからだと思えます。

また、昭和35年に本田技研工業の誘致活動に成功して以来、50年以上にわたって自動車関連産業が本市に集積しています。ホンダを中心に自動車産業を支える中小企業のものづくりは世界に誇れる技術力を備えています。

一方で、国指定重要無形文化財である「伊勢型紙」と「鈴鹿墨」は、本市の伝統産業の発展や文化財保護に大きな役割を果たしています。現在、その担い手の育成に力を注

いで技術の継承に努めています。また、本市はお茶の生産地としても全国トップクラスであり、平成23年から市内全域で「鈴鹿抹茶スイーツ」の商品化が進み始めたところです。

これらの地域ブランド・地域資源をフル活用しながら、シティセールスに取り組んでいます。

子育て・教育は未来への投資

本市のまちづくりの基本方針として3つの重点項目を掲げています。東日本大震災を教訓として、①防災・減災や防犯対策が充実した「安全で安心なまち」づくり、②子どもから高齢者、障がい者の皆さんが「笑顔で健康で暮らせるまち」づくり、③産業や経済が活発で、生き生きと暮らせる「躍動する都市として活力を創り出すまち」づくりです。



鈴鹿市マスコットキャラクター「ベルディ」

今年度からこの3つの柱を中心に「第3期行財政経営計画」をスタートさせ、「元気で魅力あふれる鈴鹿づくり」を目指しています。これらを実現するために子育てや教育を重要な分野と位置付けています。子育てや教育を社会全体で支え合うことは未来への投資であり、社会の活力と成長を維持することの基本だと考えるからです。また、本市は高齢化率18・9%と比較的若いまちで、子育て世代といわれる20〜49歳までの比率は41・3%です。子育て・子育て環境を充実させることは本市の施策として大変重要だと考えます。

そのため本市では未実施の中学

校給食を遅くとも平成27年度にスタートさせます。給食を通して食育の推進を図り、健康な食生活を育成することに加えて、子育て中の親に対する支援の側面も持たせています。

就労家庭の子育て支援に当たっては、小学校児童を対象とした放課後児童クラブについて、安心して利用いただけるよう施設整備を進めてきました。このほか、家庭・学校・地域が協働して取り組む「鈴鹿型コミュニティスクール」や少人数教育、国籍や文化が異なっても共に学び合える多文化共生教育などにも力を入れています。平成23年から外務省のパイロット事業として、ミャンマー難民の3家族を受け入れています。



市庁舎内1階ロビーでのコンサート

彼らが日本での新しい生活になじんできていることは、鈴鹿の住みやすさとこれまでの多文化共生教育の成果を示すものといえるでしょう。

スマートインター設置で 地域活性化

平成30年度開通予定の「新名神高速道路」から、本市に降りることができるようスマートインターチェンジの設置が、今年4月に国土交通大臣から認められました。新名神の開通で阪神〜中京間の人や物の流れが大きく変わり、道路の基軸も変わります。それによってスマートインターチェンジの予定地周辺の西部地域を中心に本市全体のポテンシャルが高まり、地域活性化につながるかと確信しています。市民の関心が高いスマートインターを、市全体の魅力あるまちづくりにつなげられるよう、地域の方々と知恵を出し合いながら積極的に取り組んでいきます。

市制施行70周年(むすびに)

本市は、昭和17年に軍都として2町12カ村が合併し、人口約5万人から出発しましたが、現在は人口も20万人を超え、平成24年12月1日には市制施行70周年を迎えます。この節目の年を「先人に学び、新たな道を切り拓く年」と位置付け、「新生SUZUKA発進!」を

プロフィール

- ◆ 面積 194・67km²
- ◆ 人口 20万2250人
- ◆ 世帯数 8万1797世帯

〔将来都市像〕市民一人ひとりが夢や生きがいをもって安心して暮らせるまち すずか

〔まちの特徴〕東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈と恵まれた自然環境の中にあり、伝統ある歴史と文化にはぐくまれたまち

キャッチフレーズに、さまざまな記念事業を展開しています。中でも、市民から企画を募集し、50を超える提案の中から選ばれた「鈴鹿8耐バイクであいたいパレード」や「椿の縁結びプロジェクト」など、7つの事業からは、地域をみんなで盛り上げ活性化させようという意気込みが伝わってきます。また、市民が主体的にまちづくりに参加できるように「鈴鹿市まちづくり基本条例」を制定しました。さらに「市長と話を

う鈴鹿づくりミーティング」を通じて、市民の声を直接聞き、政策に反映できるよう取り組んでいます。最近では女性市長で「接しやすさ」「身近に感じる」と、市政にかかわりの少なかった女性や若い方、そして小・中学生とも話す機会が多く持てるようになりました。これからは、女性であり母親である感性を發揮し、若さと行動力を生かしながら、みんなでつくる元気で魅力あふれる鈴鹿を目指して邁進します。



鈴鹿市長 末松則子



- 〔特産品〕伊勢茶、鈴鹿抹茶、ツツジ、サツキ、卵、海苔、コウナゴ、アサリ、アナゴ、伊勢型紙、鈴鹿墨
- 〔観光〕鈴鹿サーキット、猿田彦本宮、椿大神社、鈴鹿固定公園、佐佐木信綱記念館、大黒屋光太夫記念館
- 〔イベント〕すずかフェスティバル、鈴鹿バルーンフェスティバル、鈴鹿シティマラソン、神戸石取祭、鈴鹿市植木祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

底力を結集し、今治オリジナルの 創造により、未来を切り拓く

はじめに

今治市は、古墳時代の多くの遺跡や、7世紀には伊予の国府が置かれていたことが示すように、古くから政治・文化の中心地でした。村上水軍が活躍した中世を経て、慶長5年(1600年)には、藤堂高虎公が関ヶ原の戦功によって20万3000石で「今張」の地に封ぜられ、築城、町割によって都市発展の礎を築くとともに、地名も「今治」となりました。

中世以降、瀬戸内の要衝として栄え、四国最初の開港場・今治港を中心に発展した市街地と、固有の伝統・文化を受け継ぎながら特色ある島嶼部と陸地部、これらが平成11年5月、「瀬戸内しまなみ海道」(今治市・尾道市)の開通により結ばれました。

生活圏域として一体感を増した当地域は、平成17年1月に12市町村による全国的にもまれな広域新設合併を成し遂げ、県都松山市に次ぐ人口規模を有する新「今治市」が誕生しました。

「タオルと造船」のまちの 新時代への挑戦

進取の気風と活力に満ちたこの地域の人々は、独自の産業や優れた文化を創出してきました。本市は「タオルと造船」のまちとして多くの方に知られております。

今治タオル(国内生産量第1位・約5割のシェア)は、平成18年より国の支援を受けて、タオル業界や行政が団結し、地域が一丸となって「JAPANブランド育成支援事業」に取り組みました。国内外に通用するブランド化を目指

し、ロゴ&マークの作製、タオルソムリエやタオルマイスター制度の創設、「5秒ルール」に代表される厳しい独自の基準作成などを行ってきました。地道な努力が実り、国内外において肌触りや吸水性の良さをはじめ、世界一の技術力をもつてつくられた高品質な今治タオルの認知度が上がっております。

造船のまち・今治市は12市町村の合併(海岸線総延長341km)により、500社を数える造船業・海運業・船用工業の海事関連企業の一大大集積地となりました。海に関する歴史・文化・産業などを活用したまちづくりとして、「今治海事都市構想」に取り組みしております。その一つに、一大海事産業の現場を擁する今治らしさを前面に出した「国際海事展・パリシッ



「今治ABC祭」でにぎわう中心市街地

内海の多島美を楽しめ、世界有数の海上サイクリングコースとして知られ、多くのサイクリストが集まっております。開通当初より、サイクリストにやさしい環境づくりとして、レンタサイクルシステムの充実や自転車道・案内サインの整備などを行ってきました。

現在、この地域が誇る「瀬戸内しまなみ海道」をサイクリングの聖地として国内外に広めようと、愛媛県、広島県、関係市町が連携し、取り組んでおります。本年5月には、世界最大の台湾の自転車メーカーを中心とした台湾のサイクリング団体(約50名の訪問団)と交流事業を実施しました。愛媛県と広島県が連携して平成26年に「瀬戸内しま博覧会」の開催を検討しており、そのメインイベントとして、世界サイクリング大会の実施に夢を膨らませていきたいと思っております。

おわりに

3年前、私は市長就任に当たり、「今治市の底力」を結集するために、「行政力・市民力・地域力・産業力・教育力」の5つの底力を軸に、「子育て支援」「高齢者・障



本年5月に開催された台日サイクリング交流事業

美しい瀬戸内海に浮かぶ島々を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道(約60km)」には、個性的な橋が架けられております。このルートの特徴は、すべての橋を徒歩・自転車で通行できることです。瀬戸

未来への希望の架け橋 瀬戸内しまなみ海道

域資源を再発見し、今治の元気を日本全国に発信したいという願いの下、平成23年の「B-1グランプリ」での「今治焼豚玉子飯」や「ゆるキャラ」グランプリ2011で準グランプリに輝いた「バリエーション」の活躍は、本市を愛する情熱ある市民の取り組みが実を結んだ成果でありました。「B級グルメ」と「ゆるキャラ」を事業に取り入れた「今治ABC祭」(本年2月開催)には2日間で約10万人もの人が中心商店街に集まり、かつてないにぎわいを見せるなど、「タオルと造船」のまちに新たなイメージが加わり、まち全体が活気づいております。

害者福祉」「地球環境にやさしいまちづくり」を加えた8項目、55のマニフェストを掲げました。既に完了しているもの、継続して実施しているもの、着手しているものを合わせますと、約96・3%の事業が何らかの形で進行しております。

せんが、「今治市の底力」を結集した地道な努力を積み重ねながら、私の座右の銘でもあります「愛郷無限」の精神を軸に据え、「市民誰もが今治を愛し、合併して良かったと実感できる今治市の実現」を目指し、50年、100年先を見据えた本市の将来ビジョンの達成に向け、さらに挑戦し続けていく覚悟でございます。

プロフィール

- ◆ 面積 419・85 km²
- ◆ 人口 17万281人
- ◆ 世帯数 7万5566世帯

〔将来都市像〕「ゆとり彩りものづくり」みんで奏でる「海響都市いまばり」

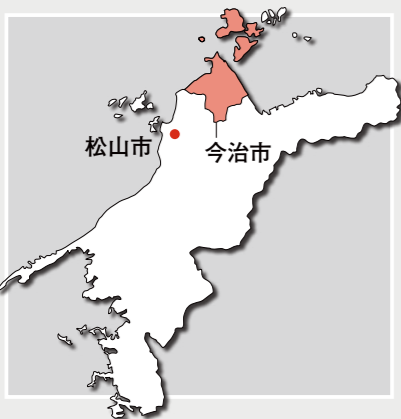
〔まちの特徴〕瀬戸内海の美しい自然と、歴史と伝統のあるまち

〔市町村合併〕平成17年1月16日、旧今治市と旧郡部11町村が対等合併

〔特産品〕今治タオル、焼豚玉子飯、



今治市長 菅 良二



鉄板焼き鳥、菊間瓦、桜井漆器、大島石

〔観光〕今治城、大山祇神社、野間馬ハイランド、今治西部丘陵公園、タオル美術館、潮流体験、来島海峡展望館、亀老山展望台、鈍川温泉、湯ノ浦温泉

〔イベント〕今治市民のまつり「おんまぐ」、瀬戸内しまなみ海道スリィデーマーチ、一人角力、継ぎ獅子

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。